
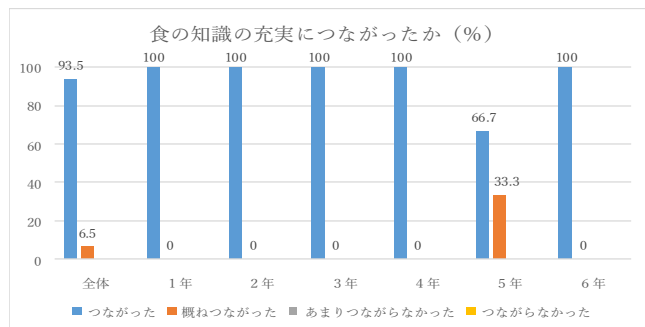
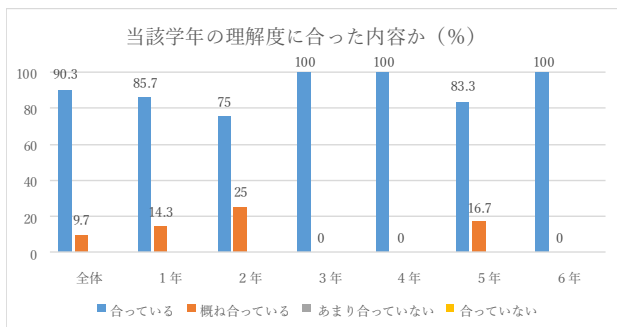
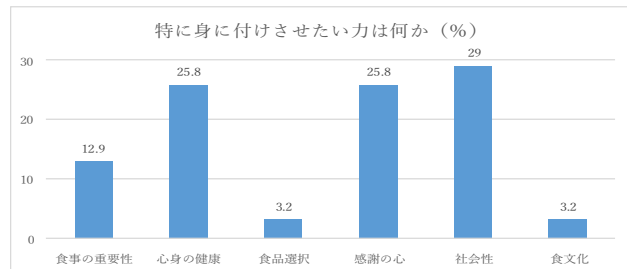
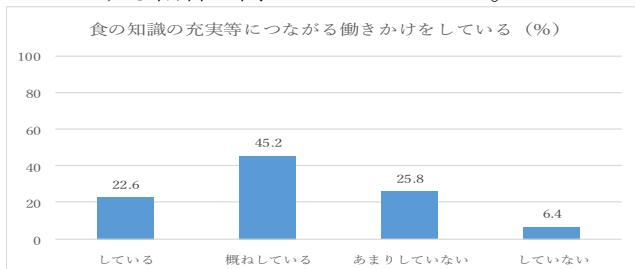


市町村名	琴浦町
研究主題	栄養教諭が行う食に関する指導及び惑星コトウラ給食の評価について
<p>1 地域の特徴</p> <p>農畜水産業いずれも盛んな琴浦町は、町全体がまるでひとつの星のように多彩な恵みにあふれていることから、「小さいくせに ぜんぶある。惑星コトウラ」をスローガンに、住んで楽しい町づくりをすすめている。学校給食においても、栄養教諭を中核に行政や地域の方々と連携し、地元食材や特産品を活用した「惑星コトウラ給食」を今年度から開始するなど、食を通した魅力発信を積極的に行っている。</p> <p>2 食育の取組状況</p> <p>栄養教諭が直接行う食に関する指導は、食育の6つの視点（食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化）をもとに各学年の学習内容を検討し、小中学校9年間を通して児童生徒が計画的に知識や実践力を身に付けられるよう、町内全小中学校7校一律の年間指導計画に沿って実施している。各学校の食に関する指導全体計画は、栄養教諭が提案した年間指導計画を盛り込んだ形で作成され、各学校独自の取組については必要に応じて随時栄養教諭も参画し、直接的な指導のほか、適切な人材のコーディネートや資料提供等を行うことで取組の充実を図っている。</p> <p>また、給食管理においては、日頃から積極的に地場産物を活用したり、食育月間や全国学校給食週間、読書週間、アレルギー週間、とっとり県民の日など、様々な機会をとらえて特色ある献立を実施することで、学校給食を教材として活用するための献立の充実や、献立を活用した食の啓発に努めている。</p> <p>3 主題設定の理由</p> <p>上記の取組を開始して4年目となり、町内全ての小中学校で食に関する指導は定着しているが、成果指標に基づく取組の振り返りや改善についてはほぼ行ったことがなく、PDCA サイクルによる適切な評価がなされているとはいえない状況にあった。栄養教諭が作成している年間指導計画は学級担任等から見ても適切な内容なのか、子どもたちの知識の充実や食生活の改善につながっているのか、より客観的で総合的な評価を行うことにより、年間指導計画の見直しを図ることとした。また、給食管理の評価の1つとして、新たな取組である惑星コトウラ給食が、子どもたちの食に関する興味関心を高め、食を通した町の魅力発信につながっているか確認し、次年度以降の取組に生かすこととした。</p> <p>4 取組内容</p> <p>(1) 栄養教諭が行う食に関する指導について</p> <p>①アンケートの実施</p> <p>給食時間の指導、学級活動及び家庭科の学習を実施した小学校の学級担任または教科担任を対象に、事後アンケートを実施した。</p> <p>②アンケート結果</p> <p>ア 給食時間における食に関する指導（回答数：31名）</p> <p>給食時間における食に関する指導は、給食準備等の給食指導に始まり、会食、短時間の集団指導、机間巡回による個別の声掛け、学級担任への日頃の様子聞き取りを一連の指導内容としている。栄養教諭が実施した指導は、当該学年の理解度に合っているか、食の知識の充実につながったかという問いでは、「合っている」「概ね合っている」、または「つながった」「概ねつながった」の合計が必ず</p>	

れも100%であり、現在行っている指導は、適切と評価されていることがわかった。



学級担任による日常的な給食指導については、「している」「概ねしている」の合計が96.8%であった。学年による偏りもなく、全学年を通じて、繰り返し継続的な指導が実施されている。しかし、食に関する知識の充実や興味関心を高める働きかけを行っている割合は67.8%であり、学級担任による指導は、配膳や食事マナーなどの給食指導重視の傾向にあるといえる。また、学級担任は食育の6つの視点のうち、給食指導と関連の高い心身の健康、感謝の心、社会性の3つを身につけさせたいとする割合が高いことがわかった。



イ 学級活動・家庭科における食に関する指導 (回答数: 30名)

栄養教諭が行った指導は学習目標に沿った内容だったか、栄養教諭が参画することで指導の充実につながったかという問いでは、全回答が「沿っている」「つながった」であった。また、学級活動では児童の変容につながったか、家庭科では必要な知識の習得につながったか、とする問いでは、「つながった」「概ねつながった」の合計がともに100%であり、栄養教諭の学習への参画は有効であると受け止められていることがわかった。

授業参画で栄養教諭に求めることとしては、指導資料の充実が76.7%、専門性が86.7%、その他の学習や活動との連動が80%であった。食を通して学習内容をより充実させ、学校教育活動全体で行う食育の中核を担う栄養教諭としての役割が定着しつつあると感じる結果となった。

(2) 惑星コトウラ給食について

【第1回 (7/6)】



ごはん 牛乳 あごのかばやき
タラモサラダ トマトスープ
琴浦町のみるくまん

【第2回 (11/19)】



ごはん 牛乳 東伯和牛の西京焼き
ブロッコリーソース おろしあえ
琴浦野菜のかす汁 大ぶろしき

【第3回 (1/19)】



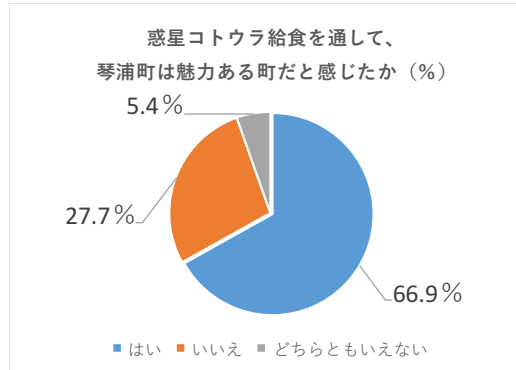
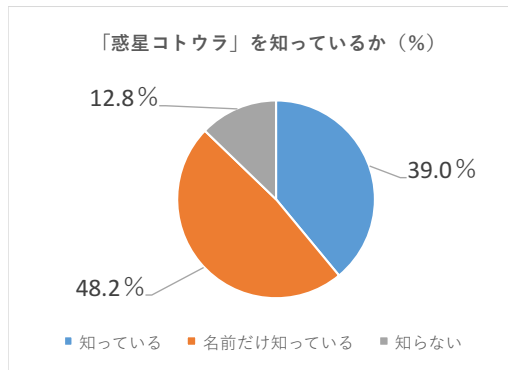
黒糖米粉パン 牛乳 とっとり琴浦
グランサーモンのグラタン風 紅ズ
ワイガニとブロッコリーのポテトサ
ラダ 琴浦野菜のコンソメスープ
白バラ牛乳シフォン

①アンケートの実施

今年度の惑星コトウラ給食（年3回）が終了後、小学校6年生、中学校2年生を対象にWEBアンケートを実施した。

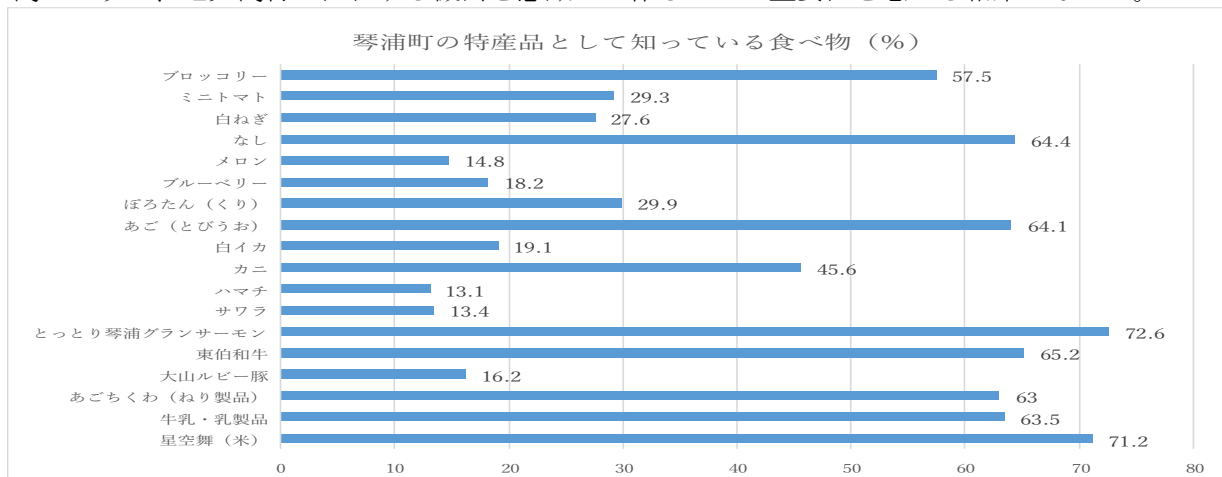
②アンケート結果（回答数：351名）

「惑星コトウラ」を知っている児童生徒は39.0%、名前だけ知っているも含めると87.2%であったことから、惑星コトウラの認知度は、給食での本取組により飛躍的に高まったものと考えられる。また、惑星コトウラ給食を通して琴浦町は魅力ある町だと感じた割合は、66.9%と半数を超えていた。多くの子どもが食を通して地域の良さを体感したといえる結果であり、郷土愛を育む上で、学校給食は重要な教育活動であることを改めて感じた。



印象に残っているメニューとしては、主菜（東伯和牛の西京焼きブロッコリーソース45.3%、とっとり琴浦グランサーモンのグラタン風44.7%）、デザート類（大ぶろしき53.6%、白バラ牛乳シフォン55.3%）の割合が高かった。特に、町事業として有名料理店「賛否両論」店主である笠原将弘シェフが考案したメニューは、調理方法や味付けにインパクトがあり、地元食材のおいしさを伝える献立の工夫の重要性を感じた。デザートについては、身近にありながらあまり口にすることがなかった昔ながらの地元の菓子を「初めて食べた」「こんなにおいしいとは知らなかった」という声も聞かれ、給食として地元ならではの味を提供することの意義について考える機会になった。

琴浦町の特産品として知っている食べ物を回答する問いでは、惑星コトウラ給食に登場した食材（あご64.1%、とっとり琴浦グランサーモン72.6%、東伯和牛65.2%）の割合が高い傾向にあった。反対に、ハマチ・サワラ・大山ルビー豚などの割合は低く、特産品であることを知らない児童生徒が多いことがわかった。これらの食材は、日頃から給食として頻繁に登場している食材、あるいは反対に、給食として使用したことのない食材という共通点がある。この度の惑星コトウラ給食のように、地元食材に注目する機会を意識して作ることの重要性を感じる結果となった。



5 成果と課題

(1) 食に関する指導

これまで行っていた評価は指導回数等の活動指標を主としていたが、学級担任等の意見を数値化した成果指標により、取組を客観的に評価することができた。給食時間の指導については、学級担任が求める内容を充実させるよう年間指導計画の見直しを図りたい。また、学級担任が継続的に食に関する指導を実施できるよう、興味関心を高めたり知識の充実を図る資料提供のあり方について検討したい。教科等における食に関する指導については、食の課題解決や教科の目標達成につながるよう、各学級の実態把握に努め、学級担任等と連携した指導の充実を図りたい。また、意識して他の取組と連動させることで、各取組がより効果を発揮するような仕組み作りを計画的に行っていきたい。

(2) 惑星コトウラ給食

惑星コトウラ給食は、町の事業と連動する形で商工観光課、企画政策課、地元業者の協力を得て実施した。学校給食への注目度を高めるため、パンフレットを配布したり報道へ情報提供するなど、積極的な啓発活動を平行して行ったことがアンケート結果に反映されたのではないと思う。認知度が低かった特産品については、今後の惑星コトウラ給食での提供や啓発の工夫により、興味関心を高める働きかけを行いたい。



【配布した啓発資料】

6 まとめ

食に関する指導の実施にあたっては、日常的に子どもたちに関わり現状や課題を把握している学級担任等の協力が欠かせない。本取組により学級担任の視点に気づくことができ、適切な評価を軸とするPDCAサイクルを活用した食育推進の重要性を改めて感じた。

惑星コトウラ給食は、食を通して琴浦町のすばらしさを五感で感じ、未来を担う子どもたちの郷土愛を育むことを目的としている。通常とは異なる特別感のある給食を提供するため、これまで関わりのなかった部署や事業にも積極的に働きかけることで、使用食材や献立のヒントを得ることができた。惑星コトウラ給食実施以前は、子どもたちだけでなく教職員からも「惑星コトウラとは何か？」という質問を度々受けるなど、必ずしも惑星コトウラ事業自体が浸透しているとはいえない状況であった。今年度3回の実施を通して、地元業者との調整や啓発活動など様々な方の協力を得ることが、給食単体の取組として実施する以上に大きな効果につながることを、本取組で確認することができた。惑星コトウラ給食は次年度以降も継続予定であり、関係課が行う調査等も参考に評価方法を検討したい。

